

青少年の組織キャンプ運営に対する キャンプカウンセラーの貢献度 —役割遂行の観点から—

白木 賢信 (筑波大学大学院)

The Camp Counselor's Contribution to Managing the Organized Camp for Youth : From the Viewpoint of the Role Performance

Takanobu SHIRAKI (The Graduate Division of the University of Tsukuba)

1 目的

本稿は、青少年の組織キャンプ運営の特性を解明する研究の一環として、青少年の組織キャンプ運営に対するキャンプカウンセラーの貢献度をその役割遂行の観点から明らかにすることを目的としている。

我が国における青少年の組織キャンプの推進は、青少年に不足している生活体験・活動体験の充実を図る具体的な方策の一つとして重要であり、その意義に関しては、これまでに参加者の意識的側面の効果に関する研究などによって明らかにされてきている^{註1)}。一方その効果的な運営方法に関しては、経験的にその手法が開発されてきているが^{註2)}、本格的な研究はまだ充分に行われていない^{註3)}。また、青少年の組織キャンプの目的を達成する上で、キャンプスタッフ、特にキャンプカウンセラーの役割は重要視されながらも、それが青少年の組織キャンプ運営に対してどのように貢献しているかについてはほとんど解明されていない。キャンプカウンセラーの役割には、参加者のグループワーカーとしての役割、参

加者に対する野外活動指導者としての役割、キャンプスタッフ組織運営者としての役割などが挙げられるが、本研究では、そのうちでもキャンプスタッフ組織運営者としての役割を取り上げ、その貢献度を解明することにした。

2 研究方法

本研究では、青少年の組織キャンプ運営に対するキャンプスタッフの貢献度をその役割遂行の程度でとらえることにするが、その役割については以下の組織論的な観点から分類したものを取り上げ、それらを分析の枠組として用いることにした^{註4)}。

- ①資源調達・計画に関する役割
- ②組織化・方法伝達に関する役割
- ③指導・動機付けに関する役割
- ④評価・報告に関する役割

本研究における青少年の組織キャンプ運営については、「設営」、「食事作り」、「メインプログラム（1泊2日のサバイバルハイクと野宿）」、「撤収」の4活動に限定し、

さらにその4活動のうちでも当該のキャンプの目的達成と相関のあった活動のみ取り上げることにした^{注5)}。なお、以上のような分析を行うために、キャンプスタッフの役割遂行に関する調査および青少年の組織キャンプの参加観察を行った^{注6)}。

3 研究結果

まず、活動別にみた下位組織 (図1参照) 運営の成果に関する評価の平均値をキャンプ別にみてみよう。

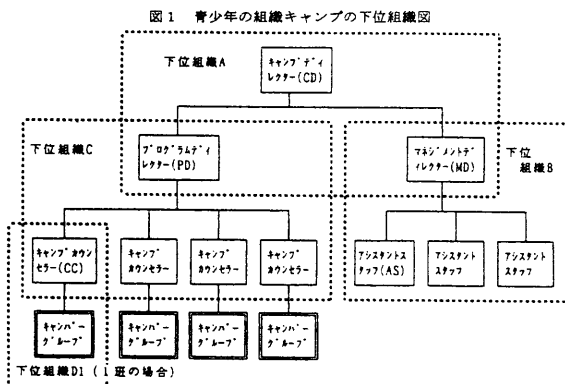


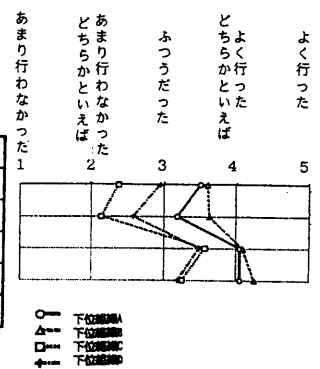
表1・2は、キャンプスタッフが所属する下位組織運営の成果について、キャンプ別に5段階評価をしたものの平均値で、表3・4は、活動別にみた下位組織運営の成果に対するキャンプスタッフの貢献度に関する自己評価の平均値を表している。これらの平均値も同様に算出したもので、ここでは、キャンプディレクター、プログラムディレクターおよびマネジメントディレクターの貢献度が、ディレクタースタッフ(DS)の貢献度としてまとめて示されている。

青少年の組織キャンプ運営の成果とキャンプスタッフ貢献度の関係について重回帰分析を行ったところ、青少年の組織キャンプ運営の成果(y)とキャンプスタッフ貢献度(x₁~x₅)の関係は次のようになった。

表1 活動別にみた下位組織運営の成果に関する評価の平均値

—第1回調査の場合—

	下位組織A	下位組織B	下位組織C	下位組織D
設 営	3.52	3.61	2.38	2.95
食 事	3.18	3.63	2.14	2.58
メ йн	4.06	4.10	3.57	3.48
撤 収	4.06	4.27	3.25	3.19
平 均	3.70	3.90	2.83	3.05

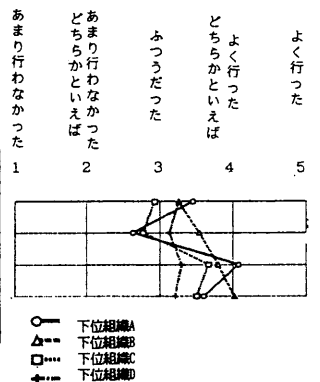


(表中の「食事」は「食事作り」、「メイン」は「メインプログラム」のことである)

表2 活動別にみた下位組織運営の成果に関する評価の平均値

—第2回調査の場合—

	下位組織A	下位組織B	下位組織C	下位組織D
設 営	3.45	3.26	2.94	3.26
食 事	2.64	3.54	2.78	3.14
メ йн	4.09	3.80	3.68	3.30
撤 収	3.61	4.03	3.50	3.21
平 均	3.45	3.66	3.22	3.23

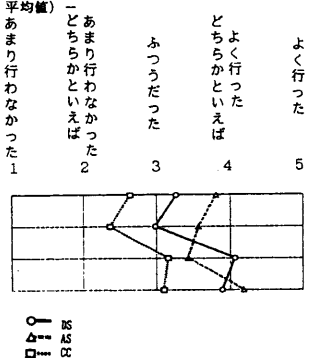


(表中の「食事」は「食事作り」、「メイン」は「メインプログラム」のことである)

表3 活動別にみた下位組織運営の成果に対するキャンプスタッフの貢献度

—第1回調査の場合(自己評価、平均値)—

	DS貢献度	AS貢献度	CC貢献度
設 営	3.27	3.81	2.64
食 事	2.99	3.57	2.37
メ йн	4.07	3.43	3.16
撤 収	3.89	4.19	3.10
平 均	3.55	3.71	2.82

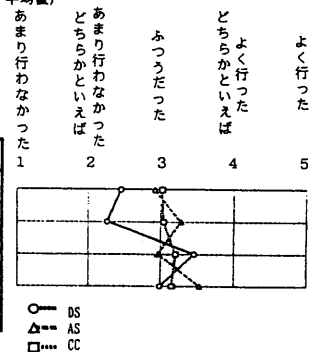


(表中の「食事」は「食事作り」、「メイン」は「メインプログラム」のことである)

表4 活動別にみた下位組織運営の成果に対するキャンプスタッフの貢献度

—第2回調査の場合(自己評価、平均値)—

	DS貢献度	AS貢献度	CC貢献度
設 営	2.55	2.93	3.03
食 事	2.27	3.29	3.04
メ йн	3.46	2.96	3.21
撤 収	2.99	3.54	3.16
平 均	2.82	3.18	3.11



(表中の「食事」は「食事作り」、「メイン」は「メインプログラム」のことである)

$$y = 0.091483 x_1 + 0.20988 x_2 + 0.24252 x_3 + 0.062483 x_4 + 0.93275 x_5 - 2.0667$$

$$R = 0.86598 \quad R^2 = 0.750$$

(ただし、 x_1 は CD 貢献度、 x_2 は PD 貢献度、 x_3 は MD 貢献度、 x_4 は AS 貢献度、 x_5 は CC 貢献度、 R は重相関係数、 R^2 は決定係数である。)

さらに、 x_1 から x_5 の y に対する規定力に関しては、標準偏回帰係数でみると (表 5)、CC 貢献度 (x_5) の絶対値が 0.49739 で最も大きく、ついで MD 貢献度 (x_3)、PD 貢献度 (x_2)、CD 貢献度 (x_1)、AS 貢献度 (x_4) の順となっている。これらのうち、青少年の組織キャンプ運営の成果 (y) に大きな規定力を有しているのは、F 検定の結果危険率 1% 水準で有意差がある CC 貢献度 (x_5) と MD 貢献度 (x_3) である。

表 5 青少年の組織キャンプ運営の成果 (y) に対するキャンプスタッフ貢献度の規定力

	標準偏回帰係数	F 値	偏相関係数
x_1 : CD 貢献度	0.13544	0.868	0.1949
x_2 : PD 貢献度	0.23258	1.871	0.2800
x_3 : MD 貢献度	0.29707	6.691**	0.4829
x_4 : AS 貢献度	0.07190	0.335	0.1224
x_5 : CC 貢献度	0.49739	12.270**	0.5984

(ただし**は、F 検定の結果、危険率 1% 水準で有意差があることを示す。)

4 考察

今回の調査だけでは速断することはできないが、青少年の組織キャンプ運営におけるキャンプカウンセラーの貢献度は他のキャンプスタッフと比べて高いのではないかと予想される。今回のような結果をみると、今後はキャンプカウンセラーの貢献度を考慮した青少年の組織キャンプ運営に関するモデルを構築する必要があるように思われる。キャンプカウンセラーの貢献度が青少年の組織キャンプ運営の良し悪しを反映するものであるならば、そのタイプとキャンプカウンセラーの貢献度

の関係を明らかにすることが、どのような青少年の組織キャンプ運営が良いのかという問題を解くことになると考えられるからである。ただし、本研究での検討は、2 事例のみの検討で、しかも青少年の組織キャンプ運営についても、4 活動という限定されたものを取り上げたにすぎない。したがって、さらに多くの事例とともに、さまざまな活動にかかわる運営の検討が必要であるが、これらはすべて今後の課題である。

注

注 1) 例えば、井村他³⁾ など。

注 2) 例えば、石田他⁴⁾ や日本キャンプ協会⁵⁾ など。

注 3) 井村他²⁾ は、指導者の確保、場所・施設の確保、財源の確保、プログラムの充実などの問題点を指摘している。

注 4) 一般的な組織論については、例えば Grocha¹⁾ や田尾⁶⁾などを参照。

注 5) ここでは単調相関係数の r 係数を用いることにし、 r 係数が 0.5 以上の、第 1 回調査における「設営」「メインプログラム」「撤収」、第 2 回調査における「設営」

の計 4 活動を取り上げることにした。

注 6) 調査の概要は次の通りである。{<第 1 回調査>調査内容:①所属する下位組織 (図 1 参照) における運営の成果に関する評価 (活動別)、②①の成果に対するキャンプスタッフの貢献度に関する自己評価、③青少年の組織キャンプの目的達成度に関する評価 (キャンプスタッフはキャンパー全体の評価、キャンパーは自己評価)、被調査者:1995 年度静岡県フロンティアアドベンチャーキャンプ (静岡県教育委員会主催) におけるキャンプスタッフ (17 人) およびキャンパー (79 人)

(計 96 人)、調査時期：1995 年 7 月 30 日～8 月 9 日、調査場所：静岡県立朝霧外活動センター内キャンプ場、調査方法：配票調査法と集合調査法の併用、回収数：96 票（回収率 100%）、有効回収数：95 票（無効票数 1 票、有効回収率 99.0%）、＜第 2 回調査＞調査内容：第 1 回調査と同じ、被調査者：Back To The Nature ' 95（静岡県キャンプカウンセラー協会主催）におけるキャンプスタッフ（16 人）およびキャンパー（92 人）（計 108 人）、調査時期：1995 年 8 月 22 日～27 日、調査場所：第 1 回調査と同じ、調査方法：第 1 回調査と同じ、回収数：108 票（回収率 100%）、有効回収数：104 票（無効票数 4 票、有効回収率 96.3%） }



しらかし たかのぶ

白木 賢信

1969 年生

筑波大学大学院博士課程

教育学研究科・静岡県キャンプカウンセラー協会

文献

- 1) Grochla, Erwin, Einführung in die Organisationstheorie, 1978, 清水敏允・小田章訳、組織理論入門、文真堂、1989
- 2) 井村仁・小島哲・寄金義紀・飯田稔・吉田章・橘直隆、フロンティア・アドベンチャー事業に関する評価研究—運営・管理についての評価を中心に—、筑波大学体育科学系紀要 14, pp.99-112, 1991
- 3) 井村仁・小島哲・寄金義紀・飯田稔・吉田章・橘直隆、フロンティア・アドベンチャー事業に関する評価研究—参加者に関わる評価を中心に—、筑波大学体育科学系紀要 15, pp.103-117, 1992
- 4) 石田裕一郎・斎藤保夫編、現代野外教育概論、海声社、1986
- 5) 日本キャンプ協会編、キャンプ指導の手引き、日本キャンプ協会、1981
- 6) 田尾雅夫、組織の心理学、有斐閣、1991